

ART KISS

LETTER Vol. 69

2014 秋



自作について語る天野喜孝さん



巻頭言

素描の妙技と色彩世界

この秋、熊本市現代美術館では天野喜孝展が開催されました。この展覧会を実現できたことの大きな意義のひとつは、この世界的に知られた多才なアーティストの原画（オリジナル絵画）が、初期から現在まで系統的に一堂に会するという希有の機会であったことです。これは作家天野さんの企画に対する深い理解と、情熱的協力があつて可能となりました。彼の想像力、究極の筆さばき、色彩感、それに秀逸なデザイン性は、このオリジナル作品に集約されています。それらは強力で魅惑的な物質感を放射しています。この美しい物質感、マチエールこそ、オリジナル作品の重要な価値を形成しています。彼は、素描の達人であり、そして豪華絢爛の色彩を駆使します。その背景には、クリムトやモロイやピアズリー等近代西欧美術の影響も見られ、またイギリスを中心とした挿絵の黄金時代をしのばせもします。

天野喜孝をグローバルにしたのは、アニメでありコンピュータ・ゲームであり、幻想小説のイラスト等です。これらはみなデジタル化された複製によって、世界各地に広がっています。ところが彼自身は、ひたすら身体、つまり指や手を使って仕事をしているのです。デジタルと対極にある純粋なアナログ世界です。極めて伝統的な方法でもって最先端の仕事を行っているのです。彼の技法と思考は、頭脳と連動した腕や手や指先等の身体に刻み込まれ、記憶されている、といってもいいでしょう。「身体の復権」を唱えたドイツの哲学者ニーチェは、「身体とは大いなる理性である」と語っています。一本の線は、天野の手にかかると勢いを持ち、時に揺らぎ、そして人間の心の闇、混沌（カオス）に触れます。背後には彼の強烈な個性があり、それはコンピュータの速く及ばない世界です。彼の絵画は、古典と現代アートの橋渡しをしていると言えるでしょう。

熊本市現代美術館館長 桜井武

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

詩の朗読会 第128回

テーマ「まち(町・街)」

2014.7.27



自身が育った町を思い出した懐かしいイメージと、新しさや栄えた街をイメージした作品が多く読まれました。また、「雨の似合う町で」という題で、旅先で立ち寄った町について詠んだ詩も印象的でした。今回は、飛び入り参加1名を含む、15名の方が詩作を発表。飛び入りでは、鹿児島県から遙々と足を運んで下さった方も！簡状の大きな楽器を片手に、波のような効果音をつけながらの詩の朗読は、とても引き込まれる演出でした。(Y・M)【参加人数15人】

詩の朗読会 第129回

2014.8.28



今回のテーマは、開催中の「水戸國親治からのプレゼント まちと人を幸福にするデザイン」展のタイトルにあわせて「幸福(しあわせ)」でした。飛び入り3名を含む14名の方が詩作を発表しました。今回のお題は難しかったと言われる方も多かったのですが、その分気持ちのこもった詩がたくさんありました。前向きな気持ちや事柄を運んだ詩は、聞いている方も徐々に前向きな気持ちになるような力がありました。また、不幸な時ほど今ある幸せに気づくといった考えさせられる詩も。参加者のみなさんの声にも特徴があり、それぞれの詩の世界に引き込まれました。今回も魅力的な一節にたくさん出会える会でした。(N・H)

【参加人数14人】

詩の朗読会 第130回

テーマ「遊び(ゲーム)」

2014.9.25



もうすぐ12年目に入る詩の朗読会も、130回目を迎えました。今回のテーマは「遊び(ゲーム)」。飛び入りの参加者3名を含む12名の作品が発表されました。幼少時代に遊んだ懐かしい思い出や、大人になっても白熱するゲームの魅力など、それぞれが抱く情景や心情が伝わってくる作品ばかりでした。仕事や勉強といった型から解放された所にある遊びやゲームでも、限りなく広がる楽しさというよりは、ルールという縛りがあるからこそ、人を虜にしてしまう力があるのだと感じました。また、単に形が決まった遊びではなく、余白の部分として「遊び」を捉えた作品も印象的でした。(N・H) 【参加人数12人】

CAMKEESの活動

美術館ボランティアCAMKEESの活動報告

CAMK「読みがたり」第59回

2014.7.19



今日から夏休みというお子さんも多く、読みがたりにも赤ちゃんから小学生まで幅広い年齢の子どもたちが遊びにきてくれました。絵本「ねないこだれだ」や手袋人形「おぼけのあかちゃん」などおぼけのおはなしをたくさん紹介しました。パネルシアター「おぼけちゃん」では、6つのおぼけが、好きなフルーツを順番に食べていき、白いおぼけがフルーツの色に変わるおはなし。バナナを食べて黄色に変わったり、ぶどうの紫に変わったり、参加した子どもたちに、次は何のフルーツかな？と問いかけると、「スイカ！」「みかん！」と元気よく答えてくれて、大盛り上がりを楽しみました。

また、絵本「ともだちでできたよ」(内田麟太郎文・こみねゆら絵)は、ギャラリーIIIで開催していた「こみねゆら絵本原画展」にあわせて紹介しました。(N・H)【参加人数40人】

CAMK「読みがたり」第60回

テーマ「夏休み」

2014.8.16



絵本「おぼけのアイスクリーム屋さん」、手遊び「かきこおり」、紙芝居「つよいぞ！カブトムシジョニー」など、夏色のプログラムでお送りしました。布絵本「かくれんぼだあれ」では、やりわらい布でできた絵本を実際に子どもたちにも触ってもらい、手遊び「かきこおり」ではお友達が好きだといったぶどうのシロップをみんなで作りました。紙芝居「つよいぞ！カブトムシジョニー」は、絵ではなく写真の紙芝居で、茶色く光るリアルなカブトムシのジョニーにみんなくぎづけの様子でした！3歳くらいの小さなお友達も、お気に入りの座布団にじっと座って、おはなしの世界を楽しんでいました。(K・O) 【参加人数23人】

CAMK「読みがたり」第61回

テーマ「家族」

2014.9.13



絵本「ほらそっくり」、「うちのかぞく」や手袋人形「にわとりかあさん」とビョビョひよこ」などを紹介しました。紙芝居「こねこのしろちゃん」は、黒ねこのお母さんや兄弟たちのようにまっ黒になりたいたいと思うねこが主人公。そんなしろちゃんに、物語の終わりでそのままでの姿でいたいと思う理由には、家族の温かさが表れていました。他にも、手遊び「おふろがわいたから」では、家族でお風呂に入る様子を、指を動かして楽しみました。(Y・M)

【参加人数22人】

ミュージック・ウェーブ

展覧会や季節にあわせたコンサートを開催しています

STREET ART-PLEX KUNAMOTO 協働事業

JAZZ OPEN 2014

2014.7.26



今年のJAZZ OPENは、熊本市中心市街地8箇所で行われ、会場の一つであるホームギャラリーでは、豊田隆博Trio with 渡辺隆介、林隆行Trioの2組による演奏をお楽しみいただきました。コンサートの初めと終わりを飾った豊田隆博Trioは、昨年のJAZZ OPENでも当館で演奏して下さったグループ。今回は、ギタリストの渡辺隆介さんとコラボレーションし、素晴らしい演奏を聴かせてくださいました。「All the things you are」(St. Thomas)などの演目に加え、豊田さんのオリジナル曲「Farwell」は、愁いを帯びたメロディがとてつもなく綺麗でした。2組目の林隆行Trioは、ピアノ、ベース、ドラムによる編成。遊ぶようなピアノのメロディも魅力があり、演奏ではメロリー4曲を披露されました。メンバー3人が音の重なりを楽しむ姿も印象的でした。(Y・M) 【参加人数88人】

アートえんにち

火の国まつり「子どもおぼけ屋敷」

2014.7.26-8.3



火の国まつりでは初となるお化け屋敷が美術館に登場しました。その名も「おぼけ屋敷」のちのちのひみつ。こわくないもん、と言っていたお友達も、やっぱり怖くて泣いちゃったり…。お化け屋敷ならではの悲鳴が飛び交い、いつもとはちょっと違う美術館を楽しんでいただけようです。(E・Z)

【参加人数2255人】

ワークショップ
「夏の子どもサンバ」



サンバダンサーのマスターを講師に招いて、サンバワークショップが開催されました。今回のサンバのテーマは「夏の子どもたち」。最初の振り付け練習では、カマキリの動き、クワガタの動き、妖怪たちの動きなどを、みんなで笑いながら覚えて汗だくになりながら表現しました。踊りを覚えた後は、パレード用の衣装作り。今回はサンバ特有のアイテム「カベッサ」も手作りして制作しました。用意されたカラフルな骨組みとキラキラ輝く虫型・妖怪型の飾りに、子どもたちは歓声をあげて飛びついていました！華やかに着飾って仕上げにメイクもキメたら、いよいよ本番。虫に妖怪になりきって、百鬼夜行ばかりに美術館内を行進します！ノリノリで踊りながら、にぎやかに進んでいくパレード隊。楽しげな雰囲気、周りからは拍手が起こり、いっしょに踊り出す人も現れるなど、館内を巻き込んでの大盛り上がりとなりました。

2014.8.2

ワークショップ
「アナウンサーになろう！」&
第21回お話し玉手箱LIVE

ワークショップ
「アナウンサーになろう！」&
第21回お話し玉手箱LIVE

2014.8.3

本田史郎さんと福島絵美さんを講師に、「アナウンサーになろう！」ワークショップを開催しました。参加した小学生は「ごんぎつね」、中学生は「蜘蛛の糸」を題材に、アナウンサーならではの発声や発音、呼吸の仕方など「声」を使った表現を体験し、朗読の練習後は、ホームギャラリで発表会を行いました。一般のオーディエンスを前に最初は少し緊張した様子



おはなしの世界
てとてが織りなす

ですが、短時間の間に講師のアドバイスを吸収し、臆することなく見違えるような成果を発揮した子供たちの姿に、本田さんも福島さんもびっくり！会場の皆さんからも温かい拍手をいただきました。

2014.8.23



手話による絵本の読み聞かせグループ「てとて」と「おはなしの世界」を開催しました。手話による絵本の読み聞かせは、どういったものなのかといったお話から始まりました。絵本は「おはなしの世界」と「おはなしの世界」の2冊。やぎとおおかみの演じ分けや、「半日村」に日が射し、稲や花が元気になる様子など情感たっぷりの手話の表現に、みなさん圧倒されていました。(E・Z) 【参加人数30人】

ワークショップ
「お絵かき道場」

2014.8.24



アートえんにちの夏休み企画として、障がい者週間のポスターをつくる「お絵かき道場」を開催しました。今回は、お絵かきの前に、熊本県立点字図書館の石坂啓さんによる視覚障害についてのお話や、障がい保健福祉課のスタッフの指導による車椅子体験を実施。最初は恐る恐る車椅子に慣れてきた子どもたちも、最後は上手に操作できるようになり、学芸員実習生にサポートしてもらいながら、ポスターを描くことができました。車椅子バスケットや点字ブロックを歩く様子な

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料 定員：90名

上映リスト(7/14～10/4)

7月14日	「キラリ・ハンター」	2012年	アメリカ映画	102分
7月21日	「子どもたちの夏チェルノブイリと福島」	2011年	日本映画	78分
7月28日	(イベントのためお休み)			
8月4日	「欲望という名の電車」	1951年	アメリカ映画	122分
8月11日	「ナチスの犬」	2012年	オランダ映画	118分
8月18日	「瞳は静かに」	2009年	アルゼンチン映画	108分
8月25日	「美しい夏キリシマ」	2002年	日本映画	118分
9月1日	「23年の沈黙」	2010年	ドイツ映画	114分
9月8日	「狂恋」	1946年	フランス映画	103分
9月15日	「ヤコブへの手紙」	2009年	フィンランド映画	75分
9月22日	「アルバート氏の人生」	2011年	アイルランド映画	113分
9月29日	「アリス・イン・ミラランド」	1998年	イギリス映画	83分

CAMK人形劇
「かさじぞう」

2014.8.30



ど、いろいろな作品が生まれていました。宿題をひとつ終わらせて、ほっとしたご家族の姿も見えました！(A・S) 【参加人数30人】

夏休みの終わりには、毎年恒例のCAMK人形劇を開催しました。昨年もお客さまのお客様で賑わったこのイベント。今年の演目は、「かさじぞう」。お馴染みの物語に、可愛らしい2匹のねずみが加わって、コミカルな場面がたくさん！子どもたちの笑い声がお地蔵さまに伝わるシーンで、その優しさが子どもたちにも伝わっているように感じました。(Y・M) 【参加人数300人】

水戸岡展1万人・2万人・3万人セレモニー

2014.8.18
8.15&9.14

「水戸岡観治からのプレゼント」
まちと人を幸福にするデザイン展

夏の企画展として、多くの方にご来場いただいた水戸岡観治展。最終日を目前に入場者3万人を突破し大盛況で幕を閉じました。記念すべき1万人のセレモニーは、8月



1日。1万人目のお客様は熊本県益城町からお越しの仲睦まじいご家族4名様でした。セレモニーでは、当館館長から記念品として、カタログが手渡されました。



その2週間後には、早くも2万人目のお客様をお迎えしました。横浜から帰省してこられたというご家族4名様。家族水入らずで鑑賞する姿は、夏休みならではの光景でした。



そして、水戸岡さんご本人がサプライズで登場した3万人セレモニーでは、熊本市内在住の2組のご家族でした。お母さん同士がお友達というところで、それぞれ電車好きの息子さん達を連れて、展示会を視て来てくれました。水戸岡さんが直接プレゼントをお渡しすると、子ども達も大喜び。展示会の最後に相応しい華やかなセレモニーとなりました。(N・H)



水戸岡鋭治×幸山政史(熊本市長)トークセッション

「水戸岡鋭治からのプレゼント
まちと人を幸福にするデザイン」展

2014.8.10



水戸岡さんと幸山市長による、「まちと人を幸福にするソーシャル・デザイン」をテーマにした対談を開催しました。水戸岡さんは、熊本市電開業90周年を記念して10月より運行する新しい市電「COCORO」のデザインを担当されましたが、そのリサーチとして、昨年市電の沿線を通り、また幸山市長からは江津湖の案内を受けました。トークでは、その時の熊本のまちなかの印象や、「COCORO」に込めたデザインについてお話しされました。

水戸岡さんいわく、熊本の人は、これほど豊かな環境に身を置いているのに、その有難さになかなか気付いていないのではないかとのこと。この豊かな活用法として、展示会場に60枚にも及ぶパネルでプレゼンテーションされた江津湖活用案について言及し、まずは出来たらいいなという気持ちで思い描くことが肝心であり、まちづくりとは、「行政の意識、社会の意識、市民の意識」が同じ方向性を向くことが重要で、行政に任せきりにするのはなく、まちに住む人々が自分のまちをどうするのかを真剣に考えることによって初めて成り立つと、オーディエンスの皆さんに発破をかけられました。

これを受けて幸山市長は、熊本の水資源の豊かさをどのように市民と守り、また活用しながら外にもアピールしていくのかが重要だと、これまでの自治体としての取り組みについてお話しされました。また、リオーダーシップに求められるバランス感覚について述べながら、城下町であった古い歴史をもつ新町、古町に400軒残る町家を残す取り組みをしている市民活動を例に挙げ、市民の間に広がるまちへの意識について言及し、行政と市民が一体となって、まちづくりに励んでいきたいと語りました。

お二人の対談では、今後のまちづくりに求められるものとして、市民が教育によって地域のまちづくりに関する意識を高め、主体的に考えてディスカッションする力を養うこと、周囲の環境に敏感に反応できるような五感を磨くこと、そしてリーダーはまちのビジョンを市民と共有する場を設けていくことが挙げられました。

美術館では今回初めて、本格的にデザインを扱う展覧会を開催しましたが、皆さんが熱心に耳を傾ける様子を目にして、今後も幅広い創造的活動を紹介し、市民の皆さんと一緒に考える機会を設けていきたいと思います! (A・A)

【参加人数1000人】

水戸岡展ナイトツアー

2014.8.16&21



恒例の商店街の皆さん向けのナイトツアーを開催しました! ナイトツアーとは、美術館周辺の商店街の皆さんがお店を閉めた後に、閉館後の美術館で学芸員と一緒に展覧会を鑑賞するツアーです。

今回は、小さなお子さんをはじめ家族連れの方が多くの特設でした。水戸岡さんは、九州を中心に全国の駅の駅のプロデュースや鉄道のデザインを多く手掛けていますが、熊本駅(在来線)が水戸岡さんのデザインであることをご存知でしたか? 本展を機に、駅の隅々まで観察していただくと、新たな発見があるかもしれません!

ツアー中は子供から大人まで仲良く「ミニトレイン」に乗車する楽しい夕べとなりました。(A・A)

【参加人数各回30人】

COCOROサププライズ運行

2014.9.15



水戸岡展最終日を記念して、水戸岡さんデザインの新しい「COCORO」が美術館前をサププライズ運行しました。館内で「本日COCOROが美術館前を走ります」とアナウンスが流れると、たくさんのお客様が電車通りの見えるところへ駆け出して行かれました。「COCORO」が通町筋に現れると、「来た!」「あれだ!」「すごい!」「きれい!!」と歓声が上がっていました。(G・S)

サププライズじゃんけん大会

2014.9.15



展覧会の最終日、サププライズで水戸岡さんが展覧会会場に登場! そしてこれまたサププライズで、水戸岡さんの書籍やイラストがプレゼントされるじゃんけん大会が開催されました。水戸岡さんのサイン入りグッズをゲットしようと、会場中の皆さんが階段ステージ前に集まり、にぎやかにじゃんけんが行われました。最後までサププライズ精神満点の水戸岡さんのおかげで、笑顔あふれる展覧会のフィナーレとなりました。(G・S)

【参加人数1000人】

COCORO 正式運行開始

2014.10.3

ついに、水戸岡さんがデザインした新しい超低床電車「COCORO」の運行が開始されました! ビカビカの「COCORO」が通ると、その姿に街ゆく人々の視線が集まり、笑顔で「COCORO」に手を振る人の姿も多く見られました。車内は木の温もりを感じられ、小さなお子さんが腰かけ



「天野喜孝展 想像を超えた世界」開幕

2014.9.27-11.23



画家、キャラクターデザイナー、イラストレーター、装幀家の天野喜孝さんの個展がはじまりました。タツノコプロでデビューした頃の作品から、「吸血鬼ハンターD」や「グイン・サーガ」の挿絵、ゲーム「ファイナルファンタジー」のデザイン、[NYSALAD]の原画をはじめとする代表作品群を、立体作品や映像を含め出品点数242点で紹介する大回顧展です。幻想的で妖艶な雰囲気のある豪華な作品から、色彩もキャラクターも全てが可愛い作品、未来を先取りする作品まで、作品の魅力を余すところなくご紹介しています。近作の「DEVA LOKA」は幅7m、最新作の「Candy Girls」は高さ3m、横4.5mという大迫力の作品です。ぜひ本物を体験してくださいね。(H・T)

天野喜孝 アーティストトーク



2014.9.27

天野喜孝さんによるアーティストトークを開催しました。司会は桜井武館長が行い、200名の観客とともに和やかなムードでトークが進みました。

今回の展覧会で作品を振り返って、初期のキャラクターデザインから、自由に描いてきた近作・最新作まで、一貫して自然に自分のなかから出てきた「かたち」を描いたものであると、改めて感じましたとの天野さんの一言が印象的でした。

また、パリのアトリエは、今すぐのことではなく、5年後こういう仕事をしよう、10年後は何をしようかと考える場でもあり、その時のアイデアや思いをもって日本で仕事をしています、というお話がありました。海外での研修先、出張先で、同じ思いを抱いたことがある観客の方もいるかもしれません、と思いながらお話を聴きました。

会の終了時には、急ぎよサプライズイベントとしてじゃんけん大会を開催しました。天野さんとじゃんけんして勝ち進んだ方は、カタログにサインしていただけるというサプライズ！天野さんの「厚意からのイベントでした。アンケートには、「作品の見方が変わる機会となりました」などの声が寄せられました。(H・T) 【参加人数200人】

G III

G III<0.99>「熊本市現代美術館コレクション」展 舞台上がれ!!

2014.9.17-11.16

当館のコレクション作品をご紹介します。展覧会を開催しました。「舞台」をテーマに、横尾忠則らの演劇公演ポスターや、森村泰昌、やなぎみわの映像・写真作品などを展示しました。



それぞれの舞台に立つ者たちを映し出したこれらの作品において、舞台上という非常の空間と、そこならではの演者たちの姿をお楽しみいただけたかと思えます。(G・S)

ギャラリーIII(G III)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです。

第四回 新町・古町マーク アイデア持ち寄り・討論

2014.7.16



町屋マークデザインワークショップ後半では、新町・古町それぞれの町全体のシンボルマークのデザインを行います。各チームはマーク2個(新町・古町それぞれ別のマーク)を一セットとして案を出し、それらの中から、一案がシンボルマークとして採用されるというコンペ形式です。採用された新町・古町マークは、実際に暖簾の柄として使用され、町屋の軒先を飾ることになります。

今回はまず、各チームのアイデア出しと、方向性の検討が行われました。学生たちはチームごとに分かれて新町・古町についてそれぞれ調べてきた情報を紹介し、そこから自分が考えたシンボルマークのアイデアを見せ合い意見を交換しました。

今回は町全体がテーマとなるため、情報収集にはこれまでの各町屋マーク以上に手間がかかります。しかしその一方で、利用できる要

素が増えたことでアイデアの幅は前回よりも広がったようです。また新町のマークと古町のマークが二つで一セットになっているというのも、今回のマーク作りの難しさであり、同時にこちらもさにもなっているようでした。

今回、有望なアイデアが多数登場しましたが、これらは次回の発表までにどのように磨き上げられてくるのか?最終プレゼンへの期待はいやおうなく高まります!(G・S)

第五回 新町・古町マーク プレゼンテーション・審査

2014.8.10



ついに町屋マークデザインワークショップも最終回。PSオランジュリにおいて各チームがデザインした新町・古町マークを発表され、実際に町のマークとして採用される案

が決定されました。コンペの審査員は、町屋研究会の他、新町・古町の地元関係者、熊本市役所、熊本市現代美術館などの各代表者が務め、さらに特別審査員としてデザイナーの水戸岡鋭治さんもかけつけてくれました。

9つのチームから出されたマークの案は合計20組。各チームは10分間で、自分たちがデザインしてきたマークについてプレゼンを行います。学生たちは、調査してきた新町・古町の歴史や特徴、実際に歩き自分たちの目で見て感じた町の姿、そしてそれをもとに創りだしたマークを、鮮やかな映像とともに紹介してくれました。「新町：武家屋敷/古町：間屋街」という対比を際立たせたマークや、熊本城を支える城下町としての新町・古町を石垣で表現したマークなど様々な案が登場しました。

水戸岡さんは「プレゼンもマークも、予想していたよりもずっと質が高かった」と感想を述べていましたが、マーク案は本場に力作揃いで審査員の皆さんも非常に驚かしそうな様子でした。そして審査員の他、来場していた町の方々からも様々な意見や提案が出され、最終的に、新町・古町の特徴的な町朝りを大胆に図案化した案が新町・古町マークとして決定しました!選ばれたチームの学生たちは「かなり思い切った案だったので不安もあったけれど、採用されて非常にうれしい」

町屋スタンプリリー

2014.10.4



新町・古町地区で、町屋をめぐりながらスタンプリリーが開催されました。このイベントでは、町屋マークデザインワークショップで作られた新町・古町マークが染め抜かれた暖簾が目印に、10軒の町屋をめぐります。洗練されたデザインが暖簾にかかることで、町屋はひととき引き締まり、風格を帯びて見えました。目的地的な町屋では同じくワークショップで学生たちがデザインしたそれぞれの町屋のマークのスタンプリリーが設置されており、それをオリジナルの手ぬぐいにしていきます。

店舗によっては、すでにスタンプリリーだけでなく商品ポップや軒先にもマークを活用しているところもありました。またこの日、多くの学生たちが、担当した町屋に滞在してお茶を飲んだり町屋の解説をしたりと、スタンプリリー参加者をおもてなししてくれました。参加者の皆さんは和服姿の町屋研究会のメンバーに案内されながら、各町屋の風情を楽しんでいました。(G・S) 【参加人数80人】



「風船で遊ぼう！」



MUSEUM INFORMATION

6月から館内にオープンした「街なか子育てひろば」。毎日、子育て中の親子が相談や交流を目的に立ち寄り、遊具で遊ぶ元気な子ども達が目立つようになり、すっかり美術館に欠かせない存在となりました。

そんな子育てひろばの7月のイベントとして開催されたのが、0〜3歳児を対象とした「創作系ワー

2014.7.17

クシヨップ・風船で遊ぼう!。親子で協力し、風船を使って行うリレーやパレー。会場いっぱいにはひろがるたくさんの風船を追いかけたり、舞い上がらせたり、突いたり、つかんだり、子どもたちの自由な発想で楽しむワークシヨップとなりました。子どもたちがそれぞれに感じたことを表情や動きに表し、親子で感じる。ふれあう、楽しい時間となりました。(N・O)

【参加人数40人】

「木のおもちゃの遊び方」

2014.8.28

子育てひろばの8月のイベントとして、「講習会・木のおもちゃの遊び方」が開催されました。おもちゃコンサルタントマスターの木原有紀さんを講師に迎え、まずは木のおもちゃについて絵本でお勉強。講師の先生が持ってきた、たくさんのおもちゃが目の前に並ぶと、キラキラした目でお気に入りのおもちゃを

手にとり次々と遊びだす子どもたち。木のおもちゃは、香りや手触り、音など、五感に程よい刺激を与えることができ、感性豊かな乳幼児期に最適のおもちゃです。なにより安心・安全に遊べるという点が木のおもちゃの良いところですね。子育てひろばでも遊ぶことができ、大人気のおもちゃのひとつになっています。(N・O)

【参加人数31人】



「音楽で遊ぼう！」

2014.9.23

子育てひろばの9月のイベントとして開催されたのが、「創作系ワークシヨップ・音楽で遊ぼう!」。今回は、渡辺恵美さ

さん・今田賀代子さんを講師に迎え、4〜6歳の子どもたちとその保護者の方を対象とした音楽ワークシヨップを行いました。講師の先生が弾くピアノの音楽に合わせて、おもいっきり体を動かし、へびになってみたり、ライオンになってみたり。また、布やフラープを使って、親子で協力して体を動かし、いろんな種類の打楽器で音を出して遊んだり、音楽の中で時間いっぱい親子がふれあう時間となりました。最初は恥ずかしがっていた子どもも、終わる頃には自分の感じたことをしっかりと体で表現できるように、音楽の持つ力・楽しさを感じることでできるワークシヨップでした。(N・O)

【参加人数30人】



ART DE GYAN

アート・どぎやん。

※熊本育でアートはどうなの?という意味です

第25回連会日本画展

2014.8.27-9.1

本号は、当館学芸員実習での実習課題のひとつとして行われた、実習生による取材記事をあわせて掲載します。

アートスペース大宝堂

熊本市中央区上通町5・6

TEL 096・354・2155

年に一度、連会に所属の先生方と生徒さん方で行われている日本画作品の



展覧会。今年で25年目を迎える。会場には14名が参加し制作した絵画が計43点展示されている。

作品の多くは熊本県の郷土風景をモチーフに、地元愛を描かれていたが、庭の花、自身の孫、旅行先での思い出なども見受けられ、参加者の方々がいかに楽しく絵を描かれたのか伝わってくる明るい雰囲気にも包まれていた。

参加者の一人である森川博幸さんは、自身の作品「古城の明窓」について「制作に約5カ月かかりました。ドイツを旅行で訪れた際に見たハイデルベルクの古城が魅力的で、現地でスケッチしたものをそのまま作品にしてしまいました」と楽しそうに語ってくれた。

他にも80歳を超えた女性や、還暦前がら登山が趣味な方など、年齢を感じさせないパワフルな一面を作品から垣間見ることができ、生き生きとした活力をこの

伝統と職人の物作り展

2014.8.26-31

熊本県伝統工芸館1階展示室
熊本市中央区千葉城町3・35
TEL 096・324・4930



福岡県で活動している古川七人さん、田島良平さんによる展示会。木目を活かした漆塗りのテーブル、たんす等の家具をはじめ、木製の箸やキーホルダーメイドしてくれる。

子供向けのコントロー系家具を製作する田島さんの作品は、明るい色の木材が優しい印象だ。娘さんがいらっしやることもあり、たんすの取っ手部分がハート

空の流木画と植物の色えんぴつ画の二人展

2014.8.27-31

熊本県伝統工芸館2階展示室B
熊本市中央区千葉城町3・35
TEL 096・324・4930



型や花型になっていたり、引き出しを引くと同時にハモニカの音が鳴ったり、作品はどれもキュート。職人のこだわりを感じる作品ばかりだった。(南ひかり)

どんぐり工房の中村けい子さんと川浪舎人さんによる展覧会。今回で、熊本県伝統工芸館での展示会は4回目になるが、初の試みとなる色鉛筆画とトルペイントのワークシヨップも取り入れた。今回は、夏の終わりに心と体を流木画と植物画で癒してほしいというこで、根っこや土などの細部にまでこだわった作品や、虫に喰われているなど遊び心のある作品が

第29回さくひん展

2014.8.21-30

いずみ南絵画クラブによる展覧会。第29回さくひん展が、画廊喫茶ジェイにて開催された。昔ながらの趣ある店内には、水彩画や油彩画、鉛筆デッサンなど様々な絵画が全部で19点飾られていた。絵画の多くは植物や自然風景で、店内の雰囲気に溶け込みながら、一つの個性が静かに存在感を与えていた。



画廊喫茶ジェイ
熊本市中央区大江本町6・9
TEL 096・372・8732

また奥に佇む、一番大きな作品、永田順子さんの「ふゆのよそおい」は、枯れた芭蕉を、丁寧にかつダイナミックに描いており、そこからは植物の枯れるという状態を繊細で美しく表現し、見る人それぞれの感情を揺さぶるような深みを感じた。今回飾られている作品すべて、絵を描くことが楽しいという気持ちに満ち溢れ、絵画が生き生きとして見えた。(白井 亜季)

和の生活雑貨

熊本県伝統工芸館
熊本市中央区千葉城町3・35
TEL 096・324・4930
2014.8.27-31



大阪府に本部をもつアトリエ瑠璃の桶瀬り子さん、山田宜子さんによる展示販売会、和布・創作服・帽子・ネクタイなどが展示されていた。中でも着物のドレスは目を引くものがあった。赤・黒・金色の色遣いが美しい。ちりめん細工のブローチや木のペンダントなどのアクセサリー小物も充実していた。アトリエ瑠璃では着物のリメイクもやっている。(大林 春彦)

藤本咲由紀・松村礼子二人展

熊本県伝統工芸館
熊本市中央区千葉城町3・8
TEL 096・326・3040
2014.8.22-31



通潤橋で有名な山都町を故郷にイラストレーションを描いている藤本咲由紀さんと松村礼子さん二人による展示。水彩やクレヨン、色鉛筆などの様々な材で故郷の風景や愛らしくも美しい情景を感じさせる女性や少女、幻想世界を、暖色をふんだんに使った温かみのあるタッチで描いている。西原 豊

茶三三鐘の和やかなピアノ音楽が流れる空間と健康に優しいメニューも良くマッチングして安らぎを与える展示会であった。お二人にはこの先も見る人に微笑みを与えるイラストレーションを描き続けてほしい。(宮本佳穂)

四季の掛軸展

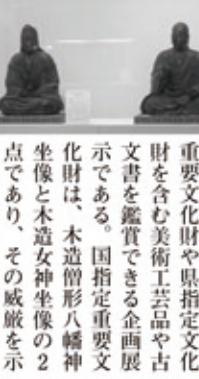
熊本県立美術館
熊本市中央区千葉城町3・22
TEL 096・322・1111
2014.8.26-9.1

現代の日本画家や日展作家による掛軸の展覧会。年に2回開催されている。水墨画や山水画の日本の奥ゆかしい自然を表現した作品や、桔梗や芙蓉の季節を感じさせる花の作品などが並び、ひとつひとつの掛軸を見ていくことにそれぞれの季節の景色や思いが思い起こされた。掛軸は日本の室内装飾では重要な役割を果たしているが、最近では床の間のない家が増え、掛軸を飾るという習慣がなくなってきた。移り変わる季節をさらに楽しむために、四季を表現した掛軸の作品に触れてみるのも良いかもしれない。(藤木 重彦)

近年、国や県から表彰を受けた17名の工芸家とその作品が紹介されている。また、熊本県伝統工芸館の工芸研修制度を活用した14名の作家とその作品もあわせて紹介されている。熊本の伝統工芸品である、おぼけの金太や肥後象眼、肥後三郎弓にはじまり、染色、陶芸までジャンルを問わず様々な作品を見ることができるよう魅力の一

つ。熊本の伝統技術を守り継承するだけでなく、新たな技術を取り入れ制作をする作家達の思いを作品から受け取れる。工芸品として作品を展示するだけでなく、作家の活動の軌跡も作品からたどることが出来る。また、数名の作家の作品は同館内のショップで購入することもでき、自宅で熊本の工芸品を楽しむ。(續真 菜)

企画展示 藤崎八幡宮の歴史と名宝

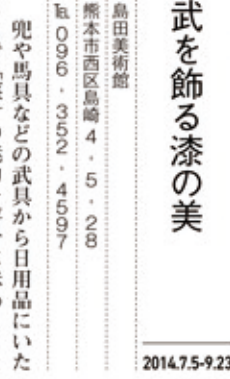


熊本県立美術館本館 二階展示室第2室
熊本市中央区二の丸2
TEL 096・352・2111
2014.7.11-9.28

藤崎八幡宮の、国指定重要文化財や県指定文化財を含む美術工芸品や古文書を鑑賞できる企画展示である。国指定重要文化財は、木造僧形八幡神坐像と木造女神坐像の2点であり、その威厳を示すかのごとく展示場の奥部に安置されていた。県指定文化財は、2体の武器と3本の太刀の5点である。さらに藤崎宮という略称は、展示品の扁額に書かれた「八幡藤崎宮」によることでもわかった。その他有名な加藤清正や石清水八幡宮からの書状、藤崎宮の御祭神の一の宮である応神天皇が、八幡神として祀られる経緯を描いた縁起絵も見ることができ、八幡神坐像のような素朴な作品から色鮮やかで豪華な巻巻まで、幅広い種類の作品が見られる有意義な展示であった。(伊東淳美)

くまもとの技と美展
熊本県伝統工芸館
熊本市中央区千葉城町3・35
TEL 096・324・4930
2014.8.5-9.21

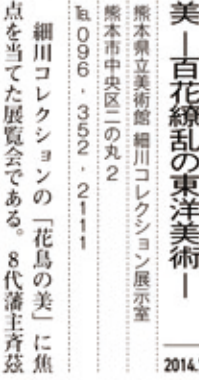
武を飾る漆の美
熊本県立美術館
熊本市西区島崎4・5・28
TEL 096・352・4597
2014.7.5-9.23



兜や馬具などの武器から日用品にいたるまで「漆」の魅力を存分に味わうことのできる展覧会である。漆器は、見た目の美しさもさることながら、機能面にお

いても防湿の役割を果たすという優れたものだ。古代から中世、中世から近世へと時代が下るにつれ、漆工技術も多様化し、装飾も繊細で華美なものとなってきた。展示作品の1つである「梨子地竹に虎蒔絵提重」も、表題にある竹と虎の文様だけではなく、梅花や菊、女郎花といった花々が散りばめられており、豪華な中にも熟練した漆職人の技とセンスが光る重箱であった。この展覧会を訪れて、日本の伝統工芸の奥深さを感じてほしい。(三浦和紗)

細川コレクションⅡ(特集)花鳥の美―百花繚乱の東洋美術―

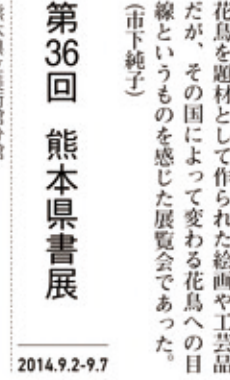


熊本県立美術館細川コレクション展示室
熊本市中央区二の丸2
TEL 096・352・2111
2014.7.11-9.28

細川コレクションの「花鳥の美」に焦点を当てた展覧会である。8代藩主斉昭が蒐集した明・清時代の中国絵画、それらを学んだ御用絵師の花鳥図、花鳥をあしらったさまざまな工芸品が展示されていた。日本絵画は中国絵画よりも季節感を出している印象を受け、福田太華の「十二月花鳥図屏風」には季節の移り変わりへの繊細な観察を感じた。また、職業画家ではない文人・黄翰の《柳金鶏図》と宮本武蔵の《鶴図》はどちらも水墨画で描かれており、その力強さ・大胆さに引き込まれた。工芸品では清の時代に作られた《孔雀螺細長方形箱》の七色に輝く緻密な装飾に目を奪われた。どちらも花鳥を題材として作られた絵画や工芸品だが、その国によって変わる花鳥への視線というものを感じた展覧会であった。(市下純子)

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.2-9.7

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21



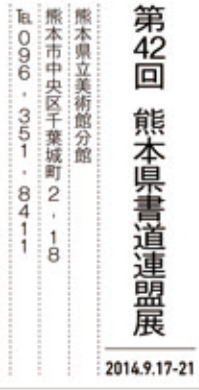
熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.2-9.7

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

第42回 熊本県書道連盟展



熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

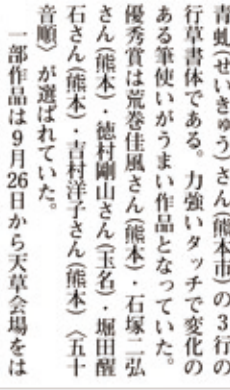
熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21



熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

熊本県立美術館分館
熊本市中央区千葉城町2・18
TEL 096・351・8411
2014.9.17-21

SUITOTTO KUMAMOTO

熊本 の 文化 を 支 え る 人 々 を ご 紹 介 し ま す 。

「月曜日ロードショー」の日本語字幕付き上映でいつもお世話になっている、熊本県聴覚障害者情報提供センターの水民喜代さんから、「手話の読み聞かせを見にきませんか?」と「くまじょう20thフェスタ」にお話をうけたのは2年前。初めて観た手話の読み聞かせのその表現の豊かさに触れ、ぜひ当館でご紹介したいと思っていました。手話による絵本読み聞かせグループ「てとてとてんとうむし」さんのご協力を得て、ようやく今年の学芸員実習期間に開催できたその様子と、実習生の感想をご紹介します。

手話による読み聞かせグループ てとてとてんとうむしさん (読み聞かせの様子と、学芸員実習生の感想)



●手話を間近で見たのは初めてでした。こんなに絵本の読み聞かせを集中して見て、聞いたのも初めてです。場面ごとの雰囲気や登場人物の感情だけでなく、風の音や花が咲いて良い香りがただよってくる様子などが手話とその表情だけでこんなに伝わってくるものなのだと感動しました。・・・!!

●聴覚障害者にとって(特に子どもは)、手話と絵本の両方から情報を取り取るため、視覚的な負担が多く、語り手の技術が必要であると分かりました。絵本の読み聞かせは、声を変えて工夫されるのが一般的ですが、手話の場合では手の美しい動きや体の向き、そして表情がとても魅力的で圧倒されました。まるで役者さんのようだと感じました。最後に話されていたように障害者と健常者が一緒に話して充実させるものだと感じました。

●手話は小学生の時に授業で少し習って以来、知るきっかけがなかなかありませんでした。手話での読み聞かせも初めての体験で、ニュース等の堅いイメージでしたが、体と表情を使って表現し、手話で花開く様子や山を登る動作は美しく、何を表しているのかわかりやすく、おも

しろかったです。改めて手話にも興味を持ちました。

●今回はじめて手話による絵本の読み聞かせを体験し、とても新鮮な気持ちでみる事が出来ました。はじめに、どのように行うのか説明していただいたのですが、実際に体験すると、語り手の工夫を身を持って感じる事ができ、とても感動しました。特に絵本と手話両方を一度に見ることはむずかしいということがわかりました。また、聴覚に障がいがある人だけではなく、すべての人に向けて行っているという、様々な人と楽しめるこの場がもっともっと広がっていくといいなと思いました。

●手話で絵本の読み聞かせを行っている団体があることを初めて知りました。今回、実際に見ることができたのは本当に貴重な経験でした。語り手と手話の指先でなややかな動きと豊かな表情、語り手の方の深みのある朗読、手話を見ているというよりも、1つの舞台を見ているような感覚になり、言葉で言い表せない感動に飲み込まれそうになりました。聞こえない人も、聞こえる人も、子どもから大人まで皆が同じ空間の中で絵本を楽しんでほしいという皆さんの活動がこれからも広がっていくことを心から願っています。

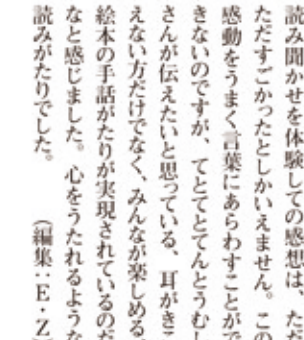
●今日は初めて手話の読み聞かせを見ました。手話は「手で話す」のではなく、「全身で話す」言葉のように感じました。「全身で話す」言葉のように感じました。人の手はこんなにも表情豊かに表現できるのかと驚きました。手の中に登場人物たちが生きていくような感覚になりました。こういった機会があれば、こんなに素敵な表現にあふれる手話にすることがなかつたと、とても良い経験になりました。

●私のように耳が正常だと、声色で誰がどのキャラクターかわかりますが、そうでない子達により伝わりやすくするため、多数の工夫と努力が垣間見え、とても尊敬してしまいました。今日の読み聞かせでは、まだママさんがしか手話を覚えることができませんでしたが、また機会がある日に別の言葉も学べることを期待したいと思います。



●今日はじめて手話の読み聞かせを体験させていただきました。手話を生で見たのも初めてだったかもしれませんが、読み聞かせを体験しての感想は、ただただすこやかたしかなかったです。この感動をうまく言葉にあらわすことができないのですが、てとてとてんとうむしさんが伝えたいと思っている、耳が聞こえない方だけでなく、みんなが楽しめる、絵本の手話がり実現されているのだなと感じました。心をうたれるような読みがたりでした。(編集:E・Z)

●今日はじめて手話の読み聞かせを体験させていただきました。手話を生で見たのも初めてだったかもしれませんが、読み聞かせを体験しての感想は、ただただすこやかたしかなかったです。この感動をうまく言葉にあらわすことができないのですが、てとてとてんとうむしさんが伝えたいと思っている、耳が聞こえない方だけでなく、みんなが楽しめる、絵本の手話がり実現されているのだなと感じました。心をうたれるような読みがたりでした。(編集:E・Z)



VOL.22

「とみこのほんこ」

ホームギャラリーからのお便り
ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介します



著者：とみこのほんこ
出版：河出書房新社 2012年

皆さんは美術館入口にCAMKの記念スタンプがあるのをご存じですか?今年の開催12周年を記念して、そのスタンプが約10年ぶりにリニューアルされました。CAMKのキャラクター「キャンクマ」が描かれたスタンプですが、作る上でのテーマは「ゆるさ」だったります。

消しゴム版画イラストレーターの「とみこのほんこ」が丁寧に、ゆるりと、消しゴムはんこの作り方を教えてくれます。とみこのほんこ曰く、心得は「ノンストレスで楽しく自分の好きなものを彫るべし」とのこと。この一文で、私にもできるかも?というわくわくが生まれてきます。写真とイラストとはんこ、とみこのほんこの優しい文章で説明されていて読んでいて癒される1冊です。何となく、とても分かりやすく説明されているのでどんな人でも読んで、実践できる事でしょう。ホームギャラリーにはこんな、ちよつとだけ自分の創作意欲をくすぐってくれる本もたくさんあります。美術館にご来館頂いた際には、展示会を鑑賞して、お気に入りの1冊を見つけて記念スタンプを押して頂ければと思います。(H・F)

編集後記

わたたくしごとですが、この秋で、美術館で働き始めて一年になりました。学芸員は展示会の企画運営や作品の管理などが仕事の中心ですが、AKLを見ていただくように、ときにはふきだしを貼ったり、旗を作ったり、サンパを踊ったり、町屋をめぐるりと、本当にいろいろなことを体験し、いろいろな人と関わっています。そのたびごとにこれまで知らなかった世界に出会って、毎日刺激が尽きません。みなさんも、AKLを読んで興味をもったワークショップなどがあれば、ぜひ参加して新たな世界に飛び込んでみてくださいね!

編集長 佐々木玄太郎

今号より編集を担当することになりました。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

先日、心待ちにしていた市電「COCORO」がついに運行を開始し、当館職員はお手製の黄色い旗を手に皆でお迎えしました。漆のようなつやのある車体に周囲の景色を映し込みながら進む姿に、街の新たな風を感じました。

担当 大田黒翔代